

10年後を見据えた

人材育成

——変化する社会を生き抜くために——

高度経済成長、バブル経済とその崩壊、リーマンショック……
いつの時代の社会においても変化はあった。

しかし、グローバル化やデジタル化などの環境要因により、
これからの社会には、ますます大きな変化が訪れることになるだろう。

今の生徒が10年後、変化に対応しながら社会を生き抜いていくためには、どのような力が必要なのか。
今号から、その力の育成と、高校教育において必要な指導について考えていく。

Q 現在高校生である生徒たちが社会に出る5～10年後は、これまで以上に変化の激しい時代であることが予想されます。そのような変化に対応し、社会を生き抜いていく上で必要とされる力は、どのような力だと思われますか。

- 自分が置かれたどのような状況にも対応するフレキシブルな力。(青森県)
- 柔軟性と適応能力。更に「笑う力」。笑える人、笑える人生が目標ではないか。(福島県)
- 創造力。PDCAが自分で回せる。当然幅広い基礎学力をベースとし、タフにチャレンジし続ける力。(静岡県)
- 周囲に流されることがなく、自分の夢や目標をしっかりと持って日々を着実に取り組むことが出来る力。ただし、自己中心的ではなく、協調性を持っていることが前提。(静岡県)
- 変化への対応と並行して、その変化で良いのかどうかを一度立ち止まって検証し、必要なら後戻りをする勇氣。(京都府)
- 未曾有の事態に対処できる柔軟性と行動力。(奈良県)
- 目標(課題)を見付け、実現(克服)に向けて自己管理が出来る能力。(広島県)
- 時代が変化しようとも、ぶれない「軸」を自分でつくること。10年後に新しい業をつくるとか、ぶれないことが良い人生をつくる方法だと思う。(愛媛県)

出典／『VIEW21』高校版読者モニターへのアンケート結果より。アンケートは、2014年6月にウェブとファクスで実施。有効回答数は49